

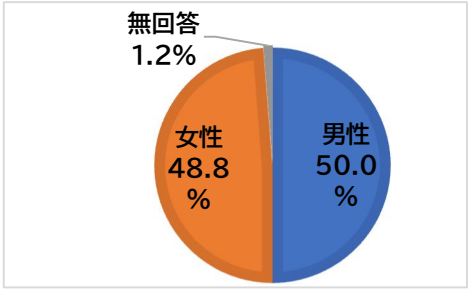
献血についてのアンケート結果

献血による血液の確保は現代の医療において必要不可欠なものです。が、少子高齢化の影響により若年層献血者の減少等課題もあります。そこで、より効果的な啓発等につなげるため、県民の献血の実態や意識について伺いました。

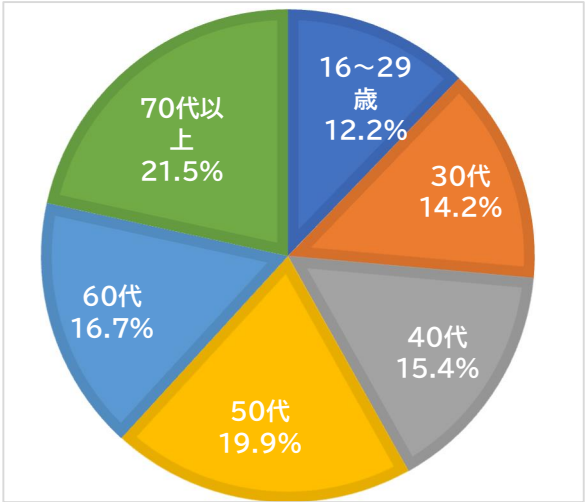
- ★調査時期: 令和7年10月
 - ★対象者: 県政モニター300人
 - ★回答数: 246 人 (回収率 82.0%)
 - ★担当課: 健康医療福祉部 薬務課
- (※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。)

【属性】

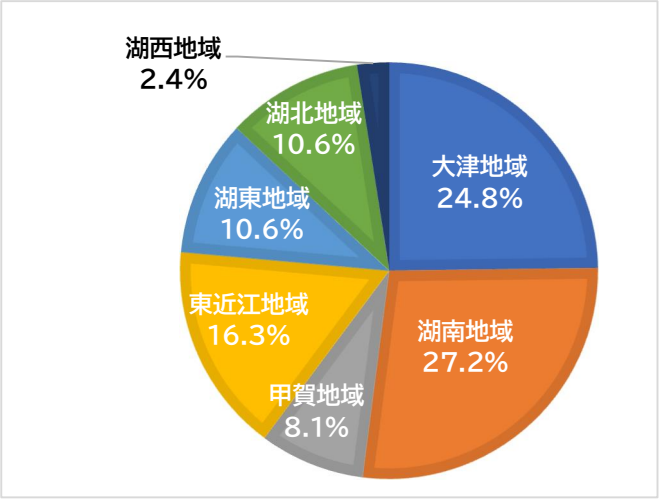
性別	人数	割合
男性	123	50.0%
女性	120	48.8%
無回答	3	1.2%
合計	246	100%



年齢	人数	割合
15 歳	0	0.0%
16～29 歳	30	12.2%
30 代	35	14.2%
40 代	38	15.4%
50 代	49	19.9%
60 代	41	16.7%
70 代以上	53	21.5%
合計	246	100%

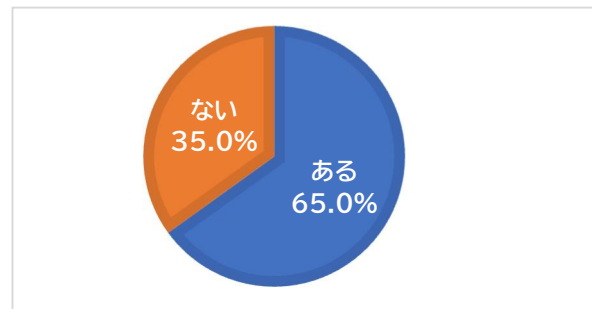


居住地	人数	割合
大津地域	61	24.8%
湖南地域	67	27.2%
甲賀地域	20	8.1%
東近江地域	40	16.3%
湖東地域	26	10.6%
湖北地域	26	10.6%
湖西地域	6	2.4%
合計	246	100%



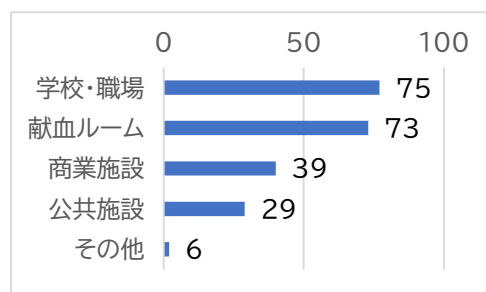
問1 今までに献血をしたことがありますか。(n=246)

	人数	割合
ある	160	65.0%
ない	86	35.0%
合計	246	100%



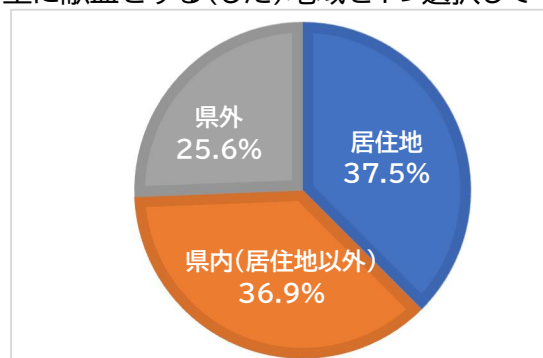
問2 問1で「ある」を選択された方におたずねします。よく献血する(した)場所はどこですか。(回答チェックはいくつでも)(n=160)

	人数	割合
学校・職場	75	46.9%
献血ルーム	73	45.6%
商業施設	39	24.4%
公共施設	29	18.1%
その他	6	3.8%



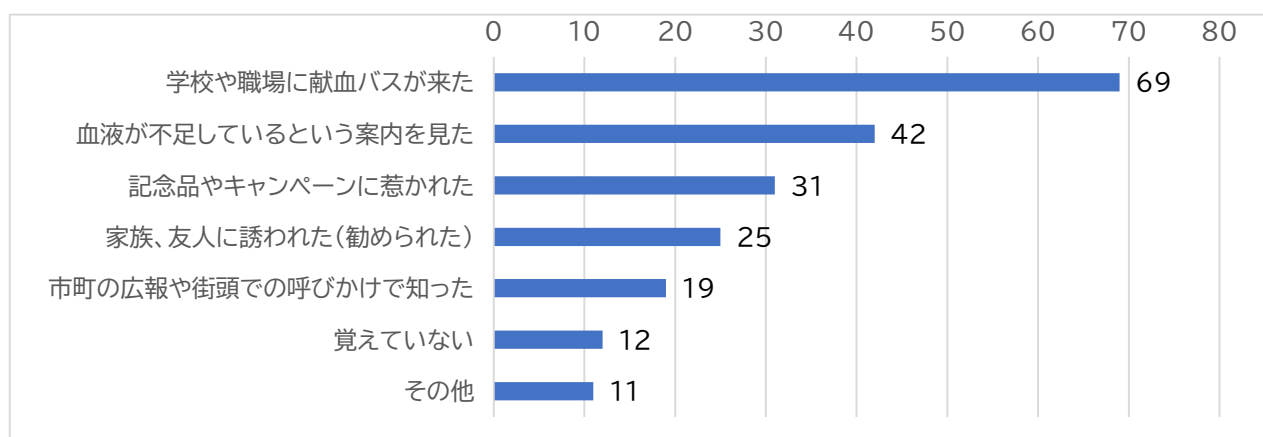
問3 問1で「ある」を選択された方におたずねします。主に献血をする(した)地域を1つ選択してください。(n=160)

	人数	割合
居住地	60	37.5%
県内(居住地以外)	59	36.9%
県外	41	25.6%
合計	160	100%



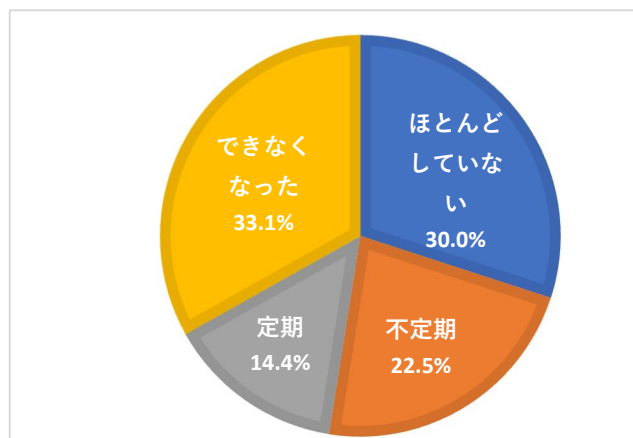
問4 問1で「ある」を選択された方におたずねします。最初に献血したきっかけは何でしたか。（「覚えていない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。）（n=160）

	人数	割合
学校や職場に献血バスが来た	69	43.1%
血液が不足しているという案内を見た	42	26.3%
記念品やキャンペーンに惹かれた	31	19.4%
家族、友人に誘われた（勧められた）	25	15.6%
市町の広報や街頭での呼びかけで知った	19	11.9%
覚えていない	12	7.5%
その他	11	6.9%



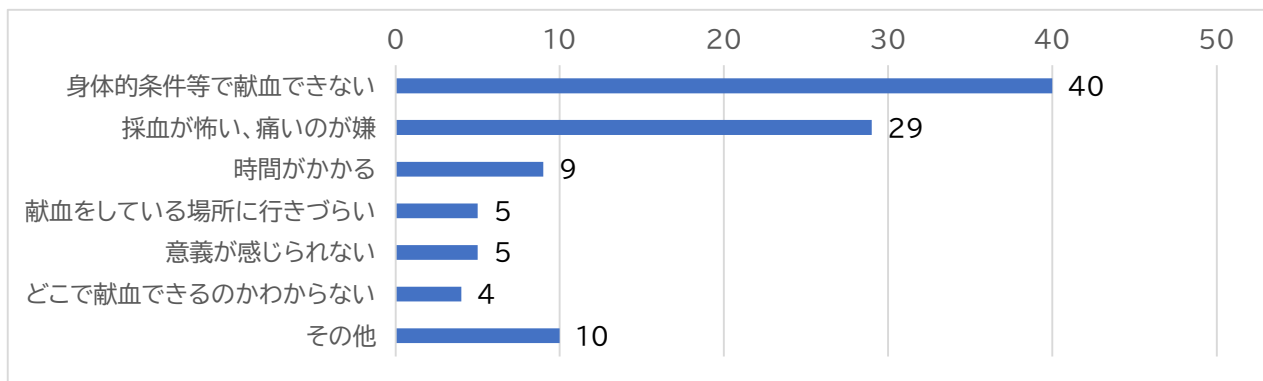
問5 問1で「ある」を選択された方におたずねします。現在の献血の頻度はどの程度ですか。（n=160）

	人数	割合
初回以降ほとんどしていない	48	30.0%
気が向いた時にしている（不定期）	36	22.5%
可能な限り定期的に行っている	23	14.4%
年齢等により献血できなくなった	53	33.1%
合計	160	100%



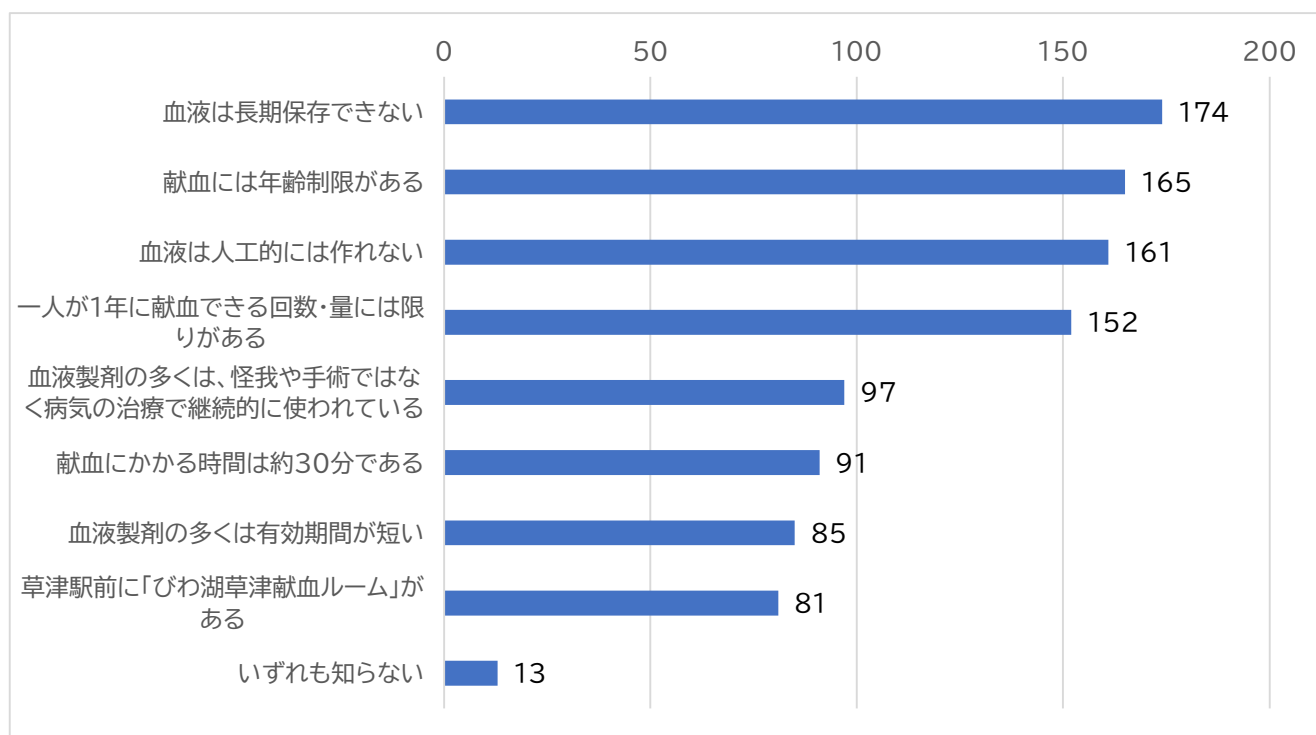
問6 問1で「ない」を選択された方におたずねします。献血したことがない理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも)(n=86)

	人数	割合
身体的条件等で献血できない	40	46.5%
採血が怖い、痛いのが嫌	29	33.7%
時間がかかる	9	10.5%
献血をしている場所に行きづらい	5	5.8%
意義を感じられない	5	5.8%
どこで献血できるのかわからない	4	4.7%
その他	10	11.6%



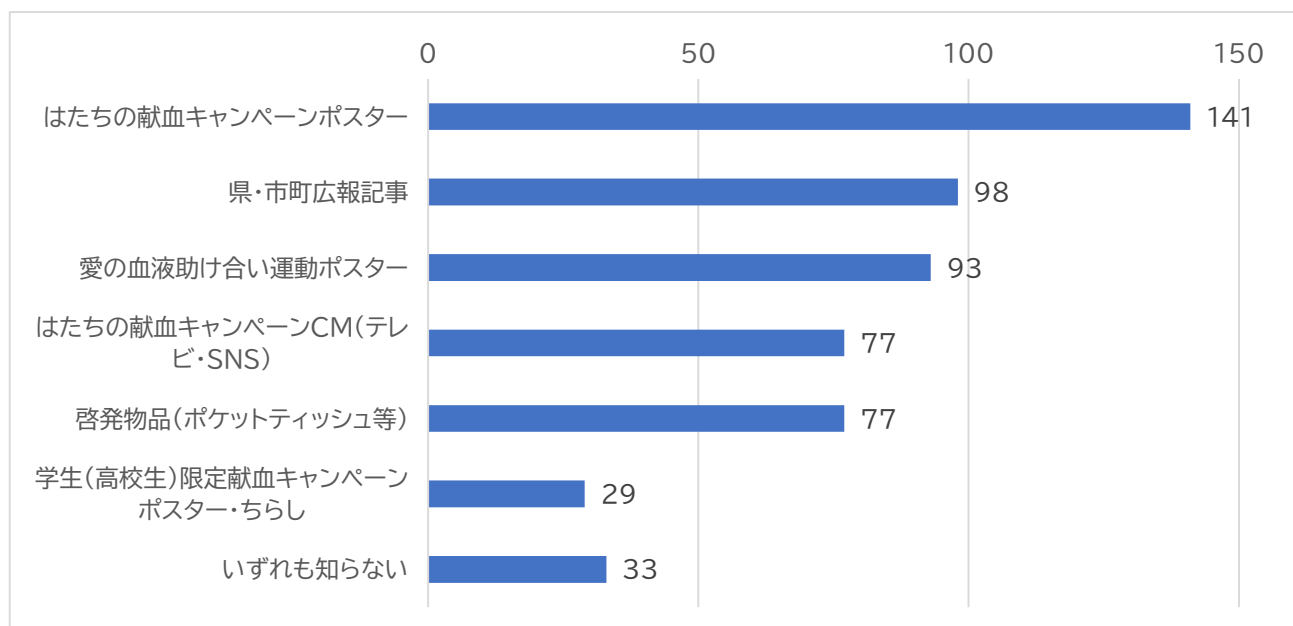
問7 献血・血液製剤(血液を原料とする医薬品)に関してあなたの知っている事柄を選択してください。
(「いずれも知らない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。)(n=246)

	人数	割合
血液は長期保存できない	174	70.7%
献血には年齢制限がある	165	67.1%
血液は人工的には作れない	161	65.4%
一人が1年に献血できる回数・量には限りがある	152	61.8%
血液製剤の多くは、怪我や手術ではなく病気の治療で継続的に使われている	97	39.4%
献血にかかる時間は約30分である	91	37.0%
血液製剤の多くは有効期間が短い	85	34.6%
草津駅前に「びわ湖草津献血ルーム」がある	81	32.9%
いずれも知らない	13	5.3%



問8 献血に関する啓発で見たことがある、知っているものはどれですか。(「いずれも知らない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。)(n=246)

	人数	割合
はたちの献血キャンペーンポスター	141	57.3%
県・市町広報記事	98	39.8%
愛の血液助け合い運動ポスター	93	37.8%
はたちの献血キャンペーン CM(テレビ・SNS)	77	31.3%
啓発物品(ポケットティッシュ等)	77	31.3%
学生(高校生)限定献血キャンペーンポスター・ちらし	29	11.8%
いずれも知らない	33	13.4%

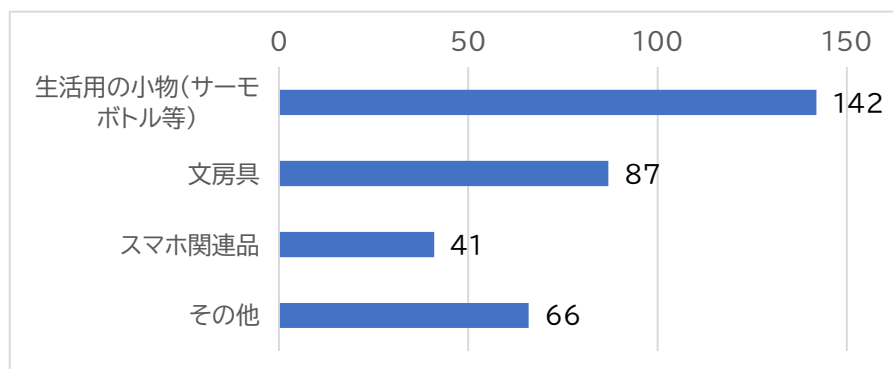


問 9 献血に協力するともらえる記念品としてどういったものに魅力を感じますか。なお、現金・金券類は法律で禁じられています。(回答チェックはいくつでも。)(n=246)

	人数	割合
生活用の小物(サーモボトル等)	142	57.7%
文房具	87	35.4%
スマホ関連品	41	16.7%
その他	66	26.8%

《その他》

食品、日用品(消耗品)、子どもが喜ぶもの

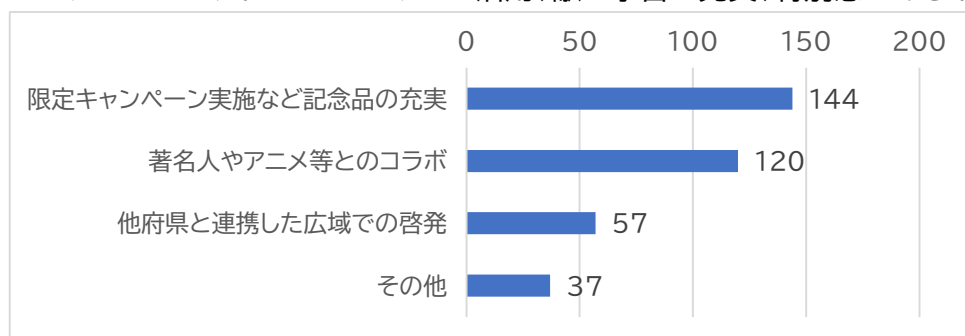


問 10 現在、少子高齢化の影響により、若年層献血者が減少しています。若い世代を中心に、より献血にご協力いただくためにどのようなことが効果的だと思いますか。(回答チェックはいくつでも)(n=246)

	人数	割合
限定キャンペーン実施など記念品の充実	144	58.5%
著名人やアニメ等とのコラボ	120	48.8%
他府県と連携した広域での啓発	57	23.2%
その他	37	15.0%

《その他》

ユーチューバーやインフルエンサーの活用、献血学習の充実、特別感のあるイベントでの献血の実施



問11 献血に関するご意見やご提案がありましたらお聞かせください。(主なもの)

- 献血を自分事として捉えられるような啓発が必要
- やってみたいけどちょっと怖い(周りに経験者がいないとよくわからない)人が多いのではないか。
- 設備の充実した献血ルームがあれば若い人も行きやすいのではないか
- 怖いイメージを払しょくするため、体験談を投稿してもらいたいと思う
- 「協力したいのに条件的にできない」という方もいると思います。そういった人たちも、献血はできなくても、自分にできることが何かあれば嬉しいなと思う。
- もっと広報すべき
- 献血が何に使われているか、助かった人の声など見える化すると、行こうと思う人も増えるかもしれない